

## 関東支部 50 周年記念講演会を振り返り

芝浦工業大学名誉教授 木邑 隆保

関東支部 70 周年、おめでとうございます。私も 20 年前を振り返り、関東支部 50 周年を思い出しております。それは私が支部長になったばかりの時に、50 周年記念事業のあれこれで困惑している時でもありました。

一番重要である会場については、かねてより新築ホヤホヤの工学院大学に目を付けておりましたので、一番先に手を打ちました。講演会関係は石沢委員長が先頭となり処理しているので下記のようなプログラムができ上がり、用意万端となりました。

日本セラミックス協会  
関東支部 50 周年記念講演会  
～ 21 世紀とセラミックス～

日時：平成 4 年 12 月 4 日（金）13 時より  
場所：工学院大学新宿校舎 3 階

<プログラム>

開会挨拶： 関東支部長（芝浦工大） 木邑隆保  
「材料組成のずれ」 東北大総長 西澤潤一  
「宇宙とセラミックス」 東京工大教授 澤岡 昭  
「21 世紀に向けての  
ファインセラミックス産業の役割」  
旭硝子(株)常務取締役 内野哲也  
「21 世紀のための技術・素材」 東大教授 柳田博明  
閉会挨拶： 関東支部常任幹事（山梨大） 兒嶋弘直  
（司会：東京工大助教授 石沢伸夫）

12 月 4 日の講演会は、当日 13 時から東京工業大学の石沢伸夫先生の司会で始まり、プログラムは順調に進行しており、90 人位の方が熱心に聴講しておられるようでした。約 4 時間経過した頃、山梨大学の兒嶋先生の講演会終了のご挨拶があり、懇親会に移って行きました。

やがてお帰りの方が少しずつ増え、ご招待や特別の方には「お宅までタクシーでお送りさせていただきます」と女子学生がお渡しするタクシー券を「ありがとう」と受け取られ、ニコニコしてお帰りになる長老の後姿がとても印象的でした。

やがて人影がなくなると、手伝ってくださった石沢委員長初め、土屋、秋葉、釘宮、大田の諸氏初め多くの方にお礼を申し上げるつもりで、夜空をいつまでも眺めておりました。

後日、東京理科大学の土屋敏雄先生が「記念講演会に参加して」と題して、セラミックス誌に投稿されました。その最後の段落だけ紹介させていただきます。

「『…以上 4 件の講演は、素晴らしい豪華な講演者に恵

まれ、このような 4 人揃った講演会は今後とも聞かれないだろう』と参加者が話されていたのが印象的でした」と土屋先生は述べておられました。

私も土屋先生と全く同感です。やはり講師の選択は間違っていないかったと、安心いたしました。

## 30 年前の「秋の見学会」

芝浦工業大学名誉教授 木邑 隆保

私は昭和 58 年頃から約 10 年、「秋の見学会」の主宰をしており、30 年前を思い出し、当時の「秋の見学会」の一端をご紹介します。

手元にある 1988、1990、1991 計 3 ヶ年の見学プログラムを、見やすくするために「表」に書き換えたものを掲載した。言葉にすれば 時は秋、人はセラ協会員、30～40 人、1泊 2 日、1 日目は最先端会社、約 3 社、2 日目は、小さな会社、特殊な会社、古い窯元、美術館が定番のプログラム、夜は旅館で、1 分間自己紹介、懇親会なるものを行い、楽しむと同時にセラ協同士は気が合うものと人生相談をしたり、親友ができたところこんだり、この懇親会は好評のようであった。

4、5 人の幹事は、見学者を引率したり、面倒をみたりするだけでなく、会社到着時間の調整を俊敏に行うなど、私は 100 点と思っている。最後の頃は、時間厳守も徹底し、誤差が 5～10 分程度までに縮まった。

事故もなく過ごした 10 年間は楽しい思い出となった。

### 「秋の見学会プログラム（抜粋）」

	1988 年		1990 年		1991 年
発	渋谷駅 (7:50)	発	高田馬場駅 (7:45)	発	渋谷駅 (8:00)
11/11 (金)	○キャノン(株) ○東陶機器(株) ○三島製紙(株)	11/9 (金)	○太陽誘電(株) ○東邦亜鉛(株) ○信越化学(株)	11/8 (金)	○東邦レーヨン(株) ○東芝硝子(株) ○浜松ホトニクス(株)
11/12 (土)	○東洋織造(株) △ベルナル・ビュフェ美術館 ■富士山溶岩焼窯元	11/10 (土)	○豊順鉱業(株) △片倉製糸博物館 ■藤岡窯業	11/9 (土)	△浜松美術館 ■遠州森山焼 ○掛川養生堂
帰	渋谷駅 <18:20>	帰	高田馬場駅 <18:15>	帰	渋谷駅 <18:10>

(注) ( ) 発車時間 < > 帰着時間  
○大手会社 ■窯元 △美術館など

(きむら たかやす/芝浦工業大学)